

平成30年度第2回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

日 時 :	平成30年8月7日(水) 午後4時20 ~午後5時15分	場 所 :	津山市役所2階 第4委員会室
出席者			
【委員】	藏田委員長、大山副委員長、小山委員、小西委員、北村委員、有宗委員、岡本委員、西本委員		
【津山市】	財政部長、財産活用課長、財産活用課主幹、財産活用課職員		
【傍聴人】	1名		
欠席者	菅田委員、赤井委員、上田委員		
1. 開会	委員11名に対して8名の参加で、委員会の成立を宣言。		
2. 委員長あいさつ	藏田委員長あいさつ		
3. 協議事項	<p>委員長 : 実際に現地に行ってみると色々感じられたことがあると思う。次回委員会までには日が空くので、今回の視察結果の振り返り内容を共有するために、今からご協議頂いたことをメモして連絡をしたいと思っている。皆さんに各施設について、感じられたことをご意見頂きたい。まずは、順にガラスハウスについて意見を頂きたい。</p> <p>◆ガラスハウス</p> <p>委員 : この施設については、残り2年間は運営していかなければならないようにきいた。指定管理料もかなりかかってきている。利用方法も学校が利用することは難しいと感じる。今後を考えると不安な施設である。</p> <p>委員 : 大人1400円で、中学生1200という利用料設定に疑問を感じられた。</p> <p>委員長 : どのような疑問を感じましたか？</p> <p>委員 : 値段設定について利用する側の中学生からすると高いが、運営する側からすると少し安いように感じる。</p> <p>委員 : 利用料は少し高いように感じる。夏期には利用者が多いので、利用料を下げて、回転数を上げて利用者を増やす方がよいと感じる。</p> <p>委員 : 7月中旬から8月にかけて利用者が激増する。利用率の悪い時期に利用者をどう増やしていくか。利用料金についても他の都市の施設と比べるとガラスハウスは安い。春や秋の利用料金を下げ、学生の利用を促進し利用者を増やすことも必要では。あれだけの大規模施設のため、老朽化による修繕費用の増大が心配である。</p>		

委員： あと2年半指定管理の料金、年間1億円の指定管理料は負担である。施設老朽化を考えれば民間譲渡も選択肢のひとつと考える。ある程度修繕費をかけてでも民間譲渡をやることに意義がある。

委員： いい施設ではある。県南からも多くの客が来ているようである。市で運営するのであれば、これだけのランニングコストがかかるのであれば、夏だけのレジャープール施設にすることも考えられると思う。

委員： オープン当初は温泉が出るときいており、地元でも多くの期待を寄せていた。足湯等を作って年間を通して使用してもらえるような施設にしたり、日帰り温泉的な用途も考えられるのではないか。

委員長： 規模の大きさはコストに跳ね返ってくるため方向性をしっかり定めていく必要がある。
どのようなターゲットを見込むかという視点で見れば、利用料金の設定も異なってくる。施設は良い施設のように感じたが、一方中途半端な印象も受けた。
今後、どのように生かしていくかの目標の設定によって進め方が変わってくる。
方向性の判断すべき時が迫ってきているため、まさに今考えるタイミングになっているのではないか。

委員： 現在の指定管理者との契約が切れた後の事は決定しているのか。

事務局： 方向性はまだ決まっていない。存続の可能性も否定されていない。

◆弥生小学校プール

委員： 6月1日から約2ヶ月程度授業で使用している。利用は2時限目から6時限目で、25時間しか取れないことから、この間の利用率は高い。

水道代を含め料金をかけているが大きな規模の学校は残していく必要があると考えるが、生徒数の少ない学校についてはそれまでの利用は無いはずであり、3校共同で利用するような形態を考える必要がある。

委員： プールサイドにけがをしそうなところがあった。プールサイドの床部分に亀裂が見受けられた。

今回は生徒数の多いプールを見てきたが、小規模の学校プールも見てみたい。

委員： 6月1日から7月23の期間のみの利用であり、今年は猛暑で夏休みのプール開放が行えていないとのことで、維持管理費を考えると節約にもなるが、非常にもったいないと感じる。

委員： 日陰があった方がいいと感じた。大規模校であれば単体の維持も可、小規模校であれば単独での維持は難しい。

委員： 1学年3クラスと聞いた。学年1クラスのような学校は、学校自体1学年3クラス100名程度の規模に集約をしたほうがよい。この程度であれば(他のプール施設まで)バスを運行した方が安いと感じる。

今後は学校も再編されていくことを考えたほうがよい。

- 委員： 授業だけでの使用となるともったいない。年間2ヶ月しか利用していない。中学校が近いところはそこを借用するというのもアイデアである。授業は夏でなければならないということはないので、民間の温水プールを利用しては良いのではないか。
- 委員： 隣接の中学校と小学校が別にプールを単独で持っているのはもったいない。低学年には浅いプールが必要ではあるが近隣にある小学校とまとめて持てば良い。プール側に桜の木があり、落ち葉が落ちていた。清掃にも手がかかるだろう。
- 委員長： 小学校のプールには久し振りに行って見たが、何も変わっていない。もっと考え方、使い方をがらっとかえてもいいのではないかと感じた
民間のプールが周辺にあるような小学校を今回の見学を参考に考えていけば見えてくる。どの程度のクオリティの授業サービスをしていくかを考えていく必要がある。夏だけやるのか、質の高い指導をするのか等様々な視点から考えていく必要がある。ハードとソフトを一体として考え、今回の見学した場所はフル稼働しているがフル稼働できてない小学校を抽出していけば議論がしやすくなると考える。
- 委員： 水温の目安は？
- 事務局： 市内のある保育所では水温が32度以上は入らないと決められていたようである。
- ◆久米レインボープール
- 委員： 久米中学校は以前から利用しているようである。小学校も中学校も学校規模は小さい。近隣で歩いてでも通える小学校があり、小学校も積極的な利用を出来ればいい。
本日の視察したプール施設の中では一番有効に利用されているような印象を受けた。
- 委員： 市内の小学校は夏休みのプール開放をしていない。熱中症等の影響を考慮し夏のプール開放をしていないのだろうが、レインボーを利用すればそういったことも起こらなくなる。中学校が現に利用しているのであれば、小学校も利用することができるのではないか。
- 委員： 小学校も利用していけばよいのでは。水深も浅くすることも出来る。
- 委員： 競技用プールとしても活用可能なプールである。水深にも対応しているとのことである。周囲の人口が減少しているので、拠点施設として活用していけるのではないか。
- 委員： 一番理想に近いプールであると感じた。
営業努力もしていると感じた。巡回バス等を出して子どもだけでも利用できるようになっていた。
競技用のプールがあるのはここだけである。これを通年化し、利用率の少ない時間帯に小規模の学校が活用できればよいのではないか。平日を有効に利用するべきである。他の民間プールにも平日の日中時間の利用があればお互いに利益となる。
- 委員： 利用価値はある。
逆に考えれば今のうちに民間譲渡の考え方もあるのではないかと考える。

委員： お年寄りが多く利用していた。子ども、シニア時間帯を分けることはどうか。利用率を高めていくことは重要。良い施設であるという印象を受けた。

委員長： 非常に頑張って運用している。老朽化等の修繕が追いついていない。てこ入れするのは今である。
学校の都合、運営者の都合、地元利用のニーズを丁寧に拾ってうまく組み合わせた提案を考えていきたい。
ある程度ターゲットやテーマを絞れば具体的で現実的な提案が出来る施設である可能性を強く感じた。

◆勝北スポーツ公園プール

委員： 小学校低学年以下には利用しやすい施設だと感じたが、もう少し大きい人たちにも利用してもらいたい。収支はトントンと聞いたが、もっと集客に力を入れるべきである。

委員： 利用料金の割にはいい施設であると感じた。
収支はトントンと聞いたが、噴水設備は故障中とのことであった。収入を上げる努力がもっと必要である。

委員： 家族でプールに行くならグラスハウスより勝北のプールに行っていた。
安全面を更に考えていく必要を感じた。
利用料金は一律 340 円であり、付き添いできている方も払っているが、安いと感じたことに今後の施設のあり方のヒントがあると感じる。

委員： 家族で小さい頃行っていたのはこの施設。完成の年から通っている。当時は利用料50円の市営プールがあったが、勝北のプールに通っていた。確か利用料は200円程度だったように思う。少し高かったが、市営プールは競技用プールだが、流れるプール、滑り台など幼児用プールとして良いプールだと思う。
倉敷市営プールは安いが、自治体の規模も関係してくる。
レジャープールとして楽しめて中高生にも負担できる金額を検討すべき。現行の340円を400円に改正する程度でどうかと感じた。
どのような形態で運営していく場合でも安全面等についてはしっかりと考えていかなければならない。

委員： 市営プールが3つは過剰ではないか。老朽化がかなり進行しており、思い切って廃止を検討してもよいのではないか。

委員： 雰囲気の良いプールであると感じた。しかし、市として3つのプールを持つ必要はない。
グラスハウスも勝北スポーツ公園プールもレジャープールである。二つは必要ない。老朽化も進んでおり思い切って廃止というのも選択肢となりうる。

委員： 場所が遠い。子どもが自分で通うのは困難な場所である。家族連れなどに利用者を限定することとなる。そうなれば毎日行くことはできない。
ある施設をどう有効に活用するかということは重要である。巡回バス等があればいいが、プールには管理に多額の費用を要する。

前にガラスハウスに塩素を届けていたが、メンテナンスは大変である。今回視察した施設では、どこも故障無く運営している施設の方が少ない。

委員長 : 生かし方による。廃止、存続、民営化、市営と1つだけでなく組み合わせも考えていく必要がある。雨漏り等の老朽化は激しかった。どのようなタイミングで誰がいつ直して、誰に利用してもらうのかを考えていく必要。また廃止 or 民間で使ってもらう等の組み合わせ等を考えながら適切に判断する必要がある。

直営でやっているという部分では運営の選択肢が狭くなっていると感じた。

事務局 : 収支はトントンとされているがここには職員給与は含まれていないので、実質的には職員4名の人件費部分は赤字化しています。

◆全体を通じて

委員 : どの施設も開始から20~30年を経過しており、見直しの時期であるように感じた。

レインボープールでドアに腐食のある場所を見たが、見えない部分での腐食も進んでいると考えられる。

作るときに後々までの維持管理を考えておかないといけない。見込みの甘さを感じた。ここ2~3年の内には方向性を見直さなければならない。

委員 : どの施設も一様に老朽化して痛んでいるような印象であった。

故障箇所があるが、修繕が追いついていない状態である。

委員 : 老朽化が進み、故障箇所が増えてきている状況である。またそれを修繕する費用の捻出にも苦心している状況である。安全な施設を維持できないのであれば廃止も検討すべきである。

委員 : 弥生小学校以外は建設時に将来を考えられていない。ガラスハウスは、故障した機材を外に搬出する術すら検討されていない。全般に見通しが甘いと言わざるを得ない。

都会の小学校には屋上プールなどあるが、参考にできないか。

委員 : グラスハウス、レインボープール、勝北スポーツ公園プール。市の限られた予算の中で、選択と集中が必要である。

レインボープールのドアの修繕は今するべきである。放置すればより費用が嵩むことになるだろう。残す建物を決めて手を入れなければならない。

委員 : 津山市の経常収支比率は90%。予算のほとんどを経常的な経費に費やしている状態である。

なかなか十分な修繕費を捻出できる状態ではない。抜根的に見直して必要な施設を定めて、そこに10%を充てなければならない。

委員 : 水の事故が多くなっていく時期である。学校等での十分な教育が必要。人災が起こらないようにお金をかけていくことも必要である。

委員長 : いろいろ出た意見をどうまとめていくかは集まって議論していく必要がある。

次回以降は今回の意見を踏まえて、狙いを定めて議論を進めていくこととする。

(2)その他

特になし。

8. 第3回津山市ファシリティマネジメント委員会開催日時について

平成30年9月20日（木） 午後3時から

9. 閉会

副委員長あいさつ